センター通信

〒 123-0873　東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728　FAX (03)5939-7880
URL　www.wfc.or.jp

法人内研修の取り組み

当法人では、次世代の担い手を育むという理念のもとに、様々な職員研修を行っています。今回は、その中でも上級職員が企画を行い、全職員が受講する宿泊研修の取り組みについて紹介します。

宿泊研修担当事業所長として

あけの星学園　事業所長　石丸　正史

今年度、宿泊研修担当事業所長として、月一回の定例会議を開催し、法人内各事業所から集まった８名の上級職員と宿泊研修の実施に向け協議を重ね、前後半の法人内宿泊研修に参加しました。

法人を上げての宿泊を伴う研修は、共通の課題に取り組むことにより事業所間の職員交流と相互理解を深めること、更に理念を踏まえた法人職員の育成を行うことの２本柱で構成されています。この企画において私の為すべき事は、法人の次世代を担う上級職員を育てることでありました。事前打ち合わせである定例会議を通して、上級職員が自ら課題形成するとともに、本研修の目的を自覚し、プログラム全体における責任感をもつ意識の醸成がなされるよう努めました。

宿泊研修実行責任者は屋嶋上級職員でした。彼は自らの責任を強く自覚し、良い研修となるよう指導力を発揮したと思います。また、研修を成功に導く為に８名の上級職員が法人の職員集団を導き、プログラムをマネジメントする姿を後輩が見たことは、研修を受講した職員が自分の将来の姿を意識する場になったと思います。法人内で後輩から目標とされるような先輩職員を輩出し、先輩を目指し力量のある職員が多く育つ環境を実現する。それにより魅力ある法人となり、結果として利用者への質の高い支援が担保されるようになると考えております。

私にとっても今回の任は、新たな学びの多いものとなりました。人材育成の重要性と実際に行うことの難しさを実感するとともに、私自身の力量不足も感じ、また新たな課題も発見しました。利用者のため、職員のため、皆が成長を感じられる法人を実現するため、今後も職員と共に更なる努力を続けて参ります。

法人内宿泊研修を終えて

清周寮　上級職員　屋嶋　洋平

第８回法人内宿泊研修をセンター職員総勢６０名、１泊２日で群馬県渋川市にある伊香保温泉ビジターセンターで実施しました。当研修は法人の上級職員が企画、実施します。それ故に責任も重く、非常に緊張もしますが同時に達成感も大きいものがあります。研修内容は、長谷場先生の理念研修、社会人マナー研修、倫理綱領の読み合わせ、ワークショップとして貿易ゲームを実施しました。

宿泊研修の内容を検討する最初の会議において、石丸園長から投げかけられた質問は「長谷場先生の過去について知っていることは?」でした。確かにセンター設立後の話題は多く挙がるのですが、それ以前の話題は明確には知りませんでした。そこで今回、「原点回帰し、長谷場先生の過去を知る」をテーマに掲げ、理念にたどりつくまでの先生の熱い想いを学び、理念の根源を知ることを研修の重要な柱としました。

研修にあたり事前に長谷場先生へ直接インタビューを行い、家族関係や生い立ち、センターで働く職員へのメッセージも頂きました。戦後７０年を迎え、戦争体験者が減っている中、戦時中の様子や時代背景を伺うことも貴重な体験でありました。

本番の宿泊研修では、インタビューの様子を DVD で鑑賞し、グループで感想を共有しました。バイタリティ溢れる先生の生い立ちを知ることは新たな発見であ

り、職員へのメッセージを頂けたことは力や勇気を貰い励みになったとの感想が挙がりました。社会人マナー研修では「会議室の席次」「ビジネスマナー検定問題」「お茶の出し方」を実施しました。実際に体験してみると、誤った認識の元に実践している職員もいて勉強になったとの意見が聞かれました。２日目は、事業所間の交流を深めるプログラムとして「貿易ゲーム」というワークショップを実施しました。これは、事業所の垣根を越えた３～４名のチームに分かれ、不平等に与えられた物資と資源を活用し、お題に対して効率よく生産性を上げ、お金をいかに稼ぐかというシュミレーションゲームです。チーム内で役割分担があり、職員の個性やチーム力が垣間見え、協力し目的に向かう作業を通し、交流が深まったようです。

研修全体を振り返ってみて思うことは、調整していくことの難しさです。上級職員各々の意見を集約し方向性を導いていくことは、私にとって至難の業だったからです。事業所や経験が違えば意見の相違は当たり前で感覚や認識の差異もあり、責任者としての任を全う出来るのか不安の日々でした。調整は上級職員間だけではありません。上司や部下に対しても同様です。担当事業所長の石丸園長にアドバイスを頂き反映していくこと、職員に会議で決まったことを滞りなく報告し、意見を取り入れていくこと、全てに於いて調整が必要でした。プレッシャーと葛藤、苦難の連続、そんな中で私が意識したことは基本に立ち返ることです。報告連絡相談、加えて確認です。社会人1年目で学ぶことですが、基本を徹底することで情報共有し、確認を行うことで感覚の差異も徐々に減っていったのではと自負しております。まさに、研修テーマの原点回帰にも繋がります。

創設者である長谷場先生の理念の根源を知り、研修に携わることが出来嬉しく思います。このような成長する機会に恵まれたことに感謝し、これからも初心を忘れず、夢を持ち続け、子ども達の明るい未来を支えながら日々邁進していきたいと思います。

新清周寮いよいよ着工

1974 年 12 月 7 日に落成された清周寮は、岩下清周氏の名から名付けられました。女子の大舎制自立援助ホームは全国初であり、設立当初から利用者が増え続けた為、改装を行い、現在では１５名の寮生をお預かりしています。

岩下清周氏とはご存知の方も多いと思いますが、明治、大正に活躍した財界人で、岩下氏の三女シスター岩下亀代が熱い情熱と子どもへの優しい想いを汲み、

友人である大林組創業者の大林芳五郎氏と共に当寮の設立に力を尽くして下さいました。とても近代的で立派な安心して過ごせる建物を建設して下さいました。

たくさんの寮生と共に大切に暮らして来ましたが、40年という年月には勝てず、ここ数年で急激に老朽化が進んでいます。特に雨の日は、事務所の床から水が溢れたり、食堂天井からの雨漏りがしたりするなど、あらゆる場所の劣化が進んでおりました。その都度補修工事は行い改善に努めましたが、４年前の東日本大震災では、外壁にヒビが入るなどの被害に見舞われ、保険会社からは半損壊という判定を受けた程でした。安心・安全に暮らせるはずの家が次第に劣悪な環境になりつつあるという現状で、このままでは、今度大きな災害が起きた時、寮生を守れる保証がないと感じ、理事会にて建て替えを決め、職員の意見を聞きながら、木造の２階建てに1年間をかけて建て替えを行うこととなりました。その間は、仮園舎にて生活致します。場所も環境も変わりますが、今まで以上のサポートをして参ります。

清周寮はたくさんの方々に支えられここまで歩んで参りました。建築物価高騰により、当初予算よりも大幅に上がり苦慮しておりますので、皆様のお力を頂ければと存じます。そして、岩下氏、大林氏を始めとした多くの方々の尽力で誕生できた清周寮の灯りを、これからも絶やすことなく歩んで参ります。

最後になりましたが、全ての皆様に感謝すると共に、今後共、お心にかけて頂きます様宜しくお願い申し上げます。

仮園舎の住所は下記の通りになりますので、お知らせ致します。

〒 123-0864
東京都足立区鹿浜 8-13-12
電話：03-5856-8167　FAX：03-5856-8161

近況報告

児童養護施設 暁星学園のようす
（定員 36 名）

平成 27 年 1 月、長谷場新宿寮が新宿区から、足立区扇にある暁星学園の敷地内に移転してきました。この敷地は、もともと暁星学園の娯楽室があった場所で、児童が卓球やキックボクシングを楽しんでいた場所でした。現在は、場所を変え本園内の自治会室を利用して卓球やキックボクシング、映画の上映会などを行っています。

現在、暁星学園、法人本部、おうぎ寮、長谷場新宿寮と4つの事業所が隣接しています。当園としては、児童の退所先として、おうぎ寮と長谷場新宿寮の2つの自立援助ホームが目の前にあるので、継続した支援が以前より行いやすい環境になりました。当園からそれぞれの寮に異動する児童にとっては、住み慣れた土地から離れることなく生活することができ、職員間の情報共有もスムーズに行うことができます。今年度より、暁星学園、おうぎ寮、長谷場新宿寮合同の扇地区連絡会を開催し、3施設間の情報共有と連携の強化を図っています。

また、毎年行っている扇バザーにおいても、長谷場新宿寮の地域交流スペースを活用することができ、地域の方との交流がより円滑に行えるようになりました。

青少年福祉センターにとっても扇地区は中心的な場所であります。今後も児童の支援にとってより良い環境づくりを目指していきますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

児童養護施設 あけの星学園のようす
（定員 20 名）

暑い夏も過ぎ、あっという間に寒さが身にしみてくる季節となってきました。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋と何か新しいことを始める季節でもありますが、当園ではフロア別に秋の行事を行いました。

女子フロアではハロウィンにちなんだ外出行事を行いました。ハロウィンパレードやスイーツバイキングなど新規入所をした児童も共に楽しんでいる様子で、少しずつではありますが、緊張もなくなっているようでした。男子フロアでも親睦を深めるということで、カラオケとバイキング行事をしました。カラオケで楽しんだ後はバイキングでお腹いっぱいまで食べ、全員が満足した様子でした。こでまりホームでは、ハロウィン当日にホームパーティをしました。子ども達が率先してホームの飾りつけをし、職員は料理の腕をふるっています。今回の行事で、食事を通すと話も弾み緊張もほぐれていくことを改めて感じました。

生活の中でもまだ入所して間もない児童は不安や緊張が強く、受け入れる側の児童も期待や戸惑いがありましたが、1日また1日と周りの児童と打ち解けておりフロアで談笑するなど、職員や在園児童らと食事をしながらたくさんの事を学んでいっているようです。まだまだ生活が落ち着くまでには時間がかかるでしょうが、職員一同、利用者にとってさらに安心・安全で居心地の良い場所となるよう一丸となり、より良い支援を行っていきたいと思います。

自立援助ホーム 長谷場新宿寮のようす
（定員　男子 15 名）

長谷場新宿寮として足立区に移転してから半年が経ちました。慣れない引越に汗を流し、沢山の荷物を運んだことは今ではとても良い思い出となっています。新しい環境での生活にも慣れ、寮生・職員共に充実した生活を過ごしています。春先から夏にかけて新しい寮生も多く入寮したことによって長谷場新宿寮にも新しい風が吹いています。

普段は仕事中心の日々となってしまう寮生達ですが、夏には多くの行事を計画し様々な体験を行いました。海水浴やプール、足立区の花火大会も観に行きました。夏の目玉となった旅行では仙台へ行きました。震災で何が起こったのかを被災地を巡ることで知り、夜には皆で語り合いました。貴重な体験を通し、心も体も一回り大きくなったと感じています。

9 月には東京西北ロータリークラブ様の招待により、植林の下草刈りに参加させて頂きました。大自然を体感しながら山登りを行い、東京にも知らない自然があることに寮生は驚き、そして楽しんでいました。

今年も 11 月が過ぎ、長谷場新宿寮としての初めての年越しを早くも迎えようとしています。年末年始にはＯＢ会や寮生忘年会、クリスマス会にお正月の家と多くの行事を予定しています。ＯＢが新しい寮を見に来てくれることを心待ちにしています。クリスマス会やお正月など季節の行事も大切にしていきながら、今年の残りも充実して過ごしていけるよう頑張りたいと思います。夢にときめけ！明日にきらめけ！未来に輝け！

自立援助ホーム 清周寮のようす
（定員　女子 15 名）

現在、清周寮には、来年の３月に定時制高校卒業を控える寮生が１名います。昨年の夏に入寮した際、高校卒業と就職内定を目標に掲げ、学業と仕事の両立に努力してきました。学業を優先すると、仕事の勤務時間が限られてしまう為、早朝から仕事を始め、仕事が終わったら学校に行く毎日を送っています。途中、弱音を吐くこともありましたが、それでも投げ出さず、努力し続けました。その結果、就職活動が始まって間もなく、就職難と言われている今日において、内定を頂くことが出来ました。それは、ここまで努力し続けた、彼女の頑張りが先方へ伝わったからだと思っています。残りの高校生活では、社会人に向けての知識や常識を更に学び、高校生活ならではの思い出をたくさん作れるよう職員もサポートしていく所存です。

学びという点ではその他にも、漢字検定や高卒認定試験を受けたり、資格取得を目指す寮生が増えました。それは、清周寮で近年取り組んできた、「資格取得の推進」が子ども達にも根付いてきた結果だと感じています。子ども達が自立した後、生活に困らないよう寮にいる間に少しでも、社会の常識や社会に出た時に役立つ資格、技術を身に付けてもらえたらと思います。

10 月 22 日に建て替えの為に仮園舎に移転し、職員も子ども達も慣れない環境での生活が始まりました。仮園舎での生活が負担にならないよう職員一同、より細かな支援を行っていこうと思っております。そして来年 12 月に、笑顔で新清周寮の生活を迎えられるように努めてまいります。

自立援助ホームおうぎ寮のようす
（定員　男女６名）

いよいよ今年も残すところわずかとなりました。日に日に寒くなっていくなか、子ども達は風邪を引くことなく、毎日元気に仕事や学校に向かっています。そんな子ども達の健康な身体を支えて下さっているのが、４名の調理ボランティアの方々です。

毎日、目標に向かい目まぐるしい生活を過ごす子ども達にとって美味しい食事は楽しみの一つです。ボランティアの方々が作って下さる手の込んだ料理は好評で、会話が弾む温かい食事の場を提供して下さっています。さらにそれだけではありません。ボランティアの方々は子ども達にとって色々な生き方をみせて下さる貴重な存在です。80 歳を超えたYさんは、今でも趣味である社交ダンスを続け、おうぎ寮での活動も４年目となります。「誰にでも出来ることではないからやりがいがある」と話すパワフルな姿は、人生を楽しむ方法を教えて下さっています。ご夫婦で一緒に活動して下さっている方は、仲の良い夫婦の姿をみせて下さっています。農業の面白さを伝えようと精力的に活動して下さっている方もいます。こうした大人の背中は子ども達にとって良い刺激となり、将来のイメージを膨らませるきっかけとなっていることでしょう。

私たち職員もボランティアの方々始め、多くの人に支えられながら、日々子ども達の支援に力を尽くすことが出来ています。これからも皆様の力をお借りしながら、「愚痴れる、失敗できる、くつろげるおうぎ寮」を目指していきます。

共同生活援助 ノエルのようす
（定員　女子５名）

たった３名の利用者さんですが、それぞれが個性的な事を前号でお知らせしましたが、今回はＨさんについてお知らせ致します。

長く続けた販売の仕事が、自分の性格とは合わないと感じて、その会社を円満退職したＨさんは、失業保険を活用しつつ次の仕事を職員と共に探していました。内定が出て、実習にまで進んだにもかかわらず彼女としては、自分が思っている仕事とは違い辞退してしまいました。その後も一所懸命に色々なところに応募をし、ついに１０月より役所にての勤務が決まりました。事務職で週５日です。求職中は、周囲をハラハラさせながらも自分に合った仕事を見つけ、これからは自立に向けての道を加速していく事でしょう。

又、彼女の努力を見てＭさんも、現在の仕事に加えて新しい職場探しを始めています。新しい環境に挑戦することに躊躇していましたが、勇気を持って進んでいく気持ちが出てき始めたことを喜んでいます。

必ずしも３名全員が週末休みとは限らず、就業時間も違うのでなかなか一緒に出かける事が難しいのですが、お誕生日やお花見等を利用して、外食行事を行い、親交を深めています。それぞれに抱えている課題は違いますが、一人暮らしに向けての準備を進めている毎日です。１人ずつの歩みはゆっくり乍ら、少しずつ成長していく利用者さん達をこれからも職員が日々の食事を共にして、折に触れて話をすることで、見守っていきたいと思っています

おうぎバザー

10月10日（土）秋晴れの清々しい天気の下、恒例の扇バザー開催。今回も資金調達・地域交流・利用者支援という三大目標に向け、一丸となって取り組みました。

物品・ゲーム・食品は、それぞれに盛況でしたが、今回は特に養護施設の調理師さん達が大活躍。あけの星学園の調理師さんは普段からお菓子作りが得意で、今回はバナナチョコクレープを100円という安価で美味しく提供し、あっという間に完売しました。また、暁星学園の調理師さん達は長年のチームワークの良さを活かし、お客様へ販売する食品はもちろん、100名あまりのスタッフ全員分の手作り昼食弁当と豚汁を用意。食事作りのプロの愛ある味は大好評で午後への活力となりました。

おかげさまで目標としていた40万円まであと少し、約35万円の売上となりました。この貴重な収入は、施設退所後自立する利用者達のために、大切に使わせていただきます。いつもながら、バザーを楽しんでくださった地域の皆様、汗を流して一緒に働いてくださったボランティアの皆様、物品や食品をご寄附くださった皆様、心からお礼申し上げます。

赤い羽根共同募金運動

毎年、秋の10月1日から歳末までの共同募金期間、当法人では、赤い羽根共同募金の活動に、全事業所をあげて参加協力しております。

今年も、10月1日･2日の両日に、JR日暮里駅前で、各事業所から派遣された職員が募金箱を手に、街頭に立って道行く人々に募金を呼びかけました。仕事に行く人、駅に急ぐ人、忙しい中で多くの人に、募金活動を通じて福祉事業へのご関心を頂き、また私達の前で足を止めて「少しだけど」とお財布からお金を取り出し募金箱へ入れていただく度に、感謝の気持ちで心が満たされます。

多くの善意を直接感じることで、私たち社会福祉従事者は、励まされ支えられ、これからも続けてまいります。

長谷場専務理事の動向

5月　おうぎ寮祭参加　　8月　保木間地区祭参加
9月　石井十次賞お祝い会(元職員､OB約40名が参加)
11月　児童養護問題研究会東京支部　講演

編集後記

2年に一度のチャリティ大バザーが、平成28年7月10日聖心インターナショナルスクールにて開催することが決定しました。今回もお買い物のほかにもゲームやお食事などご来場の皆さまに楽しんでいただけるような企画をボランティアの方々とともに考えておりますので、ぜひご来場くださいませ。また、年の瀬を迎え大掃除の際にご使用になられない到来物などがございましたら、ぜひご寄附いただきたく存じます。収益につきましては、子どもたちのために活用させていただきますので、何卒ご協力の程、よろしくお願いいたします。
（送付先：東京都足立区扇1-12-20　青少年福祉センター聖心バザー委員会宛）